

## 景況実感調査(3月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

### 薄板・表面処理鋼板

- ① 店売りマーケットにおいては、タイト感が全くなく苦戦が続く。価格には大きな動きが見られないが、メーカー値上げの価格転嫁が難しい。物件は見えていることから、悪い話だけではないように思われる。
- ② 荷動きに一服感が出てきた。末端の実需が盛り上がり、懸念感が出てきている。
- ③ 3月中旬ごろから消費税がらみの仮需期待も空振り、厳しい状況になりそうな気配である。トラックは相変わらず少ない状況が続いている。
- ④ 前月(2月)比、営業日は1日増、消費増税前月という期末月であったが、売上、数量、稼働率ともに前月を下回った。メーカーのロールはほぼフル稼働とのことだが、国内の動きは静かな印象となっている。4月以降は増税の影響も少なからずネガティブ要因と見られ、海外玉の増加も市況にとってはマイナスだろうし、要注意。相変わらず職人とトラック不足の状況は、短期では解決できぬ構造と思われ、仕事はあれど消化能力不足がネックとなり、国内実需を売上に繋げない状況が続く。

### 厚板

- ① F A Bの鉄骨物件のズレが顕著になってきた。F A Bは遅れる物件との工程組み替えに苦慮している模様。そのため、切断しても出荷できない状況がこの2カ月続いており、月末の製品在庫数量が増加傾向にある。各高炉とも5～7月に定修があり、タイト感は続く見込みである。

### — 舟爰开金岡

- ① 全国的に職人不足で、早くこの状況を改善しなければならない。
- ② 閑散とした日々が多かったが、締めてみると意外にも売上は伸びていた。昨年は3月から売上の落ち込みが始まり、6月まで前月比減であったが、今年はトレンドが違うようだ。第1四半期が例年落ち込むトレンドは変わらないが、前年より落ち込み方は浅いのではないか。人手不足による建設納期遅延や建材の値上がりによるコストアップにより計画そのものの見直し、棚上げが散見されるが、深刻な問題だ。
- ③ スクラップの底値から価格積み残し分もあり、下げの余地はなくチャンスを見計らって、再度価格転嫁にチャレンジしていきたい。

### II 开金岡

- ① 在庫水準は高いレベルとなっているが、大雪等の影響があったこともあり、出荷量はやや戻りつつあるので、弱気にならず価格維持と積み残しの転嫁を行う。
- ② 市況が崩れる可能性があったが、何とか踏み止まった感がある。ただその分、売上げは落ち込んだ。回復するには在庫の減少とメーカーの対応にかかっている。

## 異形棒鋼

- ① 反動も出ているが、実需は底堅い。見合いでいけば市況も横這いで推移すると思う。
- ② 3月も全般的に荷動き不振で粗利益率は低下し、採算が悪くなってきた。スクラップ価格が底入れ、反転したため市況維持はできると思うが、荷動きの好転は期待できない。朝日工業の影響で丸鋼の販売が増加した。

## 平鋼

- ① 3月の荷動きは2月同様に悪いながらも若干回復した。3月にまたも関東メーカーが事業撤退することとなり、仕入れ難から市中、紐付きともに混乱が生じている。とくに小平サイズは在庫が逼迫しており、代替メーカーにて生産が落ち着くのに少し時間がかかるのではないかと。
- ② 中圧の廃業により小平の品薄感が出てきており、王子の対応を注視している。(エキストラ価格上昇)

## 鋼管

- ① 2月に比べ出荷減も、市況は強含みで推移。4月の反動減は避けられないが、価格維持を期する。

## 構造用鋼

- ① メーカーからの値上げをどのように転嫁するかがポイント。市況は決して良くない。
- ② 鉄鋼メーカー各社は値上げに動いている。それに対して市場はタイト感に欠け、ややギャップがあるが、メーカーの動向によって流通各社にも動きがあると思われる。
- ③ 需要動向については、引き続き堅調な動きとなっているが、4月以降の反動減が懸念される。また、建設機械関連は需要が底を打ちながらも回復するには至っていない。さらに4月以降も不透明となっている。店売りの荷動きは横這いの状況が続いている。市況については、メーカーが電力や燃料等のコスト上昇により値上げを打ち出しているが、荷動きが全体的に盛り上がり欠け、さらに4月以降が不透明な状況にあることから、価格転嫁には時間がかかるものと思われる。

## その他

### <鋼材全般>

- ① 新年度に入り、引合い低調。
- ② 以前のような増税前の駆け込み仮需もなく、足元の引合いは極端に減っている。年度末には換金売りと思われる安値も散見。価格転嫁が進む中、市況維持への影響が気になる。

### <曲げ加工>

- ① 全般的に公共投資の浸透が薄く、本格的な仕事が増えていないように思う。今月、大きな物件が多少あったため、売上げそのものは大きく後退はしなかった。しかし、全体的に件数が少なかった。曲げ加工そのものの物件も少なかった。今後は連休明けから7月にかけて豊洲市場の物件が出てくるので、一部明るい希望が持てる。

### <スクラップ>

- ① 売り先が増加したことにより、スクラップ相場は下げ止まった。しかし、メーカーも生産調整を行っているところも多く、積極的な集荷までには至っていないので、荷余り感もあり、本格的な上げ相場になるにはもう少し時間がかかるのではないかと。

### <金属表面処理加工>

- ① 3月は物件物、紐付きとも当初の計画通り高い処理量となった。スポットも2月と比較して20%以上の増加。大口物件の進捗が順調で4月も高操業で推移。購入品各種の値上げと背景に4月より価格転嫁を実施。